第60回 市町村駅伝

香南市A 連覇

1,2位独占 歴史的快挙!!

大会記録を4分17秒更新

区間賞7、金字塔を打ち立てた韋駄天集団

1月29日(日)室戸市から安芸市までの国道55号コース(8区間46・5㎞)で、第60回高知県市町村対抗駅伝競走が行われました。香南市からは3チームが出場。24市町村41チームが争う中、Aチームが区間賞を7つマークし、総合タイムを4分17秒短縮する2時間25分02秒の大会新記録で、見事連覇を果たしました。また、Bチームも気迫と粘りの走りで大健闘の2位入賞。Cチームは昨年より順位を上げ、21位でゴールしました。

香南市が1、2位を独占する圧倒的強さを見せつけた今大会。レースの経過報告をするとともに、レースを振り返っての感想やこれまでの取り組みなどを山本武夫監督にお聞きしました。

【写真】2区千屋和仁選手から3区千屋祐太選手への親子タスキリレー(室戸市吉良川町)

レース経過

前半

1 区(7.4㎞)は、エース級がそろう勝負区間。午前10時、41チームがシレストむろと前をスタートしました。香南市Aの佐々木優一選手は、四万十市A、四万十町A、室戸市Aとともに先頭集団を形成。3㎞過ぎで四万十市Aが抜け出しましたが「絶対に負けるものか」と必死に食らいつき、13秒差の2位(区間新記録)でタスキをつなぎました。香南市Bの工藤晃一選手は8位、香南市Cの小松孔明選手は22位。

2 区(6.7㎞)は、2位でタスキを受けた香南市Aの千屋和仁選手が、トップ四万十市Aを1秒差まで追い上げる快進撃を見せて区間賞を獲得する一方、香南市Bの谷雅弘選手は5人抜きの3位に浮上。香南市Cの小松公雅選手は、18位でタスキをつなぎました。

3 区(2.8㎞)は、中学生区間。香南市Aの千屋祐太選手が区間賞。スタート直後に四万十市Aをとらえ一気に突き放しにかかり、1分11秒差をつけトップに。香南市Bの福守勇魚選手は3位を維持し、香南市Cの岩川尭世選手は、順位を1つ上げ17位。

4 区(4.6㎞)も、香南市Aの井上雄貴選手が区間賞を獲得。リードをさらに広げ、2位に2分27秒差の1時間6分58秒で前半を折り返しました。香南市Bの川下尚亮選手は、一つ順位を上げついに2位に。香南市Cの福守朗選手は、3区と同じく17位で前半をゴールしました。

後半

5 区(9.2㎞)は、一斉再スタートで、コースの中で最長区間。香南市Aの山田健一選手は、2㎞過ぎでトップに立ち、他チームを引っ張っていく形に。そのまま独走態勢で区間賞を獲得しました。香南市Bの大塚康由選手は13位、香南市Cの野町順治選手は26位。

6 区(2.8㎞)は、3区と同じく中学生区間。香南市Aの秋山優樹選手が区間賞の走りで、リードを6秒広げました。13位でタスキを受けた香南市Bの坂本友彦選手は、ごぼう抜きの5位に浮上。香南市Cの上久保利直選手は、順位を1つ上げ25位でタスキをつなぎました。

7 区(5.6㎞)は高校生が活躍。香南市Aの藤田椋也選手が区間賞。香南市Bの十萬将弥選手は5位を守り、香南市Cの若江秀樹選手は順位を5つ上げ20位。

8 区(7.4㎞)でも、香南市Aの渡部和幸選手が区間賞で、2位との差を3分25秒に広げ1時間18分04秒で後半をゴールしました。香南市Bの湯原孝介選手は2つ順位を上げ3位、香南市Cの伊藤光広選手は25位で後半を終えました。

総合

前半と後半のタイムを合計した総合順位は、香南市Aが2時間25分02秒の大会新記録で優勝、香南市Bが2時間30分58秒で2位、香南市Cが2時間45分53秒で21位となりました。

interview

レース終了後、山本監督に話を伺いました。

どこにも負けない競争心

「昨年優勝したこともあり、プレッシャーはかかっていましたが、選手たちは本当によくやってくれました。連覇できて正直ほっとしています」と山本監督はレース終了後、緊迫した面持ちから、にこやかな表情に変わりました。選手一人ひとりの力が結集し、日ごろの練習を積んできた成果が表れた今大会。昨年に引き続き、自衛隊勢の存在は大きく、また、著しい成長を見せる中学生がチームの底力となりました。「各自が自分のペースを設定し、目標に向かってひたむきに頑張る選手全員の意識の高さと、お互いが切磋琢磨する競争心の強さは、どのチームにも負けません。それらが選手層の厚さを増し、そして、補欠のサポートがあってこその勝利、まさに総合力で勝ち取った優勝だと思います」とチーム全員でつかんだ栄光の喜びを噛みしめました。

圧巻のBチーム

さらに、今大会ですごかったのは、香南市Bの2位。他のチームが思うようなレースができない中、香南市Bは普段どおり自分たちの走りで快進撃を見せ、入賞を果たしました。山本監督は「ワン、ツーフィニッシュなんて、こんなにも早く実現するとは夢にも思っていませんでした」と驚きを隠せない様子でしたが、二重の好成績に目を細めていました。

地道な強化が実を結ぶ

連覇を成し遂げたその背景には、幾多の苦労もありました。合併前には、5カ町村ごとに出場していた市町村駅伝。陸上競技人口が少なく、チームがなかなか組めなかったこともあったようです。「旧香我美町時代には、町村合併を見越して平成7年に『香美陸上クラブ』を設立し、チーム強化に向けて地道に力を注いできました」と、町村を超えた仲間がライバルとして一緒に技術を伸ばし合える環境を整えてきたそうです。長年の努力が実を結び、チームを思う気持ちや一体感、そしてどのチームにも負けない強い「絆」が生まれました。

3連覇に向けて

結果的には、他チームを寄せつけず圧勝となった今大会でしたが、山本監督は「これから真価が問われる」と気を引き締めます。日ごろからチームを支えてくれている関係者や地域の方々へ感謝し、選手それぞれが走る喜び、誇りを胸に刻みながら3連覇を目指し今日も熱い走りを見せます。来年に向けた市町村の意地とプライドをかけた闘いは、もう始まっています。

Aチーム監督 **山本武夫**(香我美町)

長年にわたり選手として活躍した後、現在まで21年間指導者として選手の育成にあたる。